

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	サポートハウス藤ヶ丘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	愛知県名古屋市長区宝が丘191 コーポ伊藤1F
記入者名 (管理者)	大野智子
記入日	平成 19 年 5 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに自分で出来ることは自分して頂いている。自由をホームの方針としている。	○	新しく移り住む利用者が一日でも早く地域住民に馴染むように今後も手助けをしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目の届く所に掲示し、意識しながら支援を行っている。理念に沿ったケアを入居者に行えるように日々話し合っている。	○	理念を意識しながら、日々のケアを行い、ケアの質を高めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は玄関に掲示、入居時には本人や家族に説明、地域の人々にも自由に開放している。地域の行事(清掃活動やお祭りなど)に参加し、交流を深めている。	○	施設での行事にご家族や地域の方に参加して頂いたり、地域の清掃にまめに参加したりして、理解を得ていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会や地域の幼稚園の行事などに積極的に関わり、地域に溶け込んでいる。	○	今後も散歩に出掛けた時に、地域の方に積極的に話しかけたり、バザーの時に粗品などをたくさん出したりし、日頃からコミュニケーションをとっていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊りや公園の草取りに参加し、保育園の運動会の招待されている。	○	今まで以上に地域の防災訓練、お祭りなどの行事に積極的に参加していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設に急に訪ねてみえた方のお話をじっくりうかがったり、施設長が地域の要望による講演を行ったりしている。また、施設長が県のグループホーム連絡協議会副会長を務め、講演を通し指導や助言を行っている。	○	今後も、もっと地域に貢献できることはないか、全職員で考えていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員にケアサービスの質の評価の意義を理解、周知し、評価結果を今後の改善に生かせるように取り組む。	○	評価結果を全員で共有し、反省等を行い、よりよいケアができるように努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次回の運営推進会議で外部評価への関心取り組み状況など話し合い、意見交換を行う予定である。毎日、意見や要望をケアに生かせるように心掛けている。	○	家族などからいただいた意見や要望は職員全体で話しあい、次回の運営推進会議の時など、できるだけ早急に改善などしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて介護指導課に相談などをしに行っている。	○	今後も行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修で学ぶ機会を多く作っている。当施設内の勉強会で知識を高め、家族からの相談に日々応じている。	○	今後も行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならない事である為、職員も細心の注意を払っている。言葉づかいにも気をつけ、どういったことが虐待となるのか、職員全員が把握するため勉強会を行っている。	○	介護者にストレスがたまらないよう、介護者の息抜きやフォローを今まで以上に行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族の希望を優先している</p> <p>ホームで行われているケアが家族の希望と合致、納得されてから契約を行う。</p> <p>また、入所後もこまめに説明や相談を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も契約書を分かりやすいものにし、契約前に面談や話しあいの時間をしっかりとっていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時聞き入れる体制を取っている。</p> <p>職員も受けとめ、分科会等で話し合い、反映させている。</p> <p>また、内外部の連絡先を重要事項説明書に明示しており、本人、家族にも説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議などの会議で意見を述べてもらったり、管理者が意見や要望を聞く機会を随時設けていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の暮らしぶりを面会時や電話でこまめに報告している。</p> <p>サポートハウス通信を月1回発行しており、行司や日常の様子を個々に家族へ送っている。</p>	<p>○</p> <p>訪問時に利用者の体調や状況を報告している。</p> <p>これからも、施設内に行事やお知らせをまめに貼り出し、家族に見てもらおうようにする。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情は窓口に明示されている。</p> <p>家族にもパンフレットなどを必要に応じて渡している。</p> <p>頂いた意見は、すぐに会議を開き、話し合いを行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も意見や要望を言ってもらえる雰囲気や信頼関係作りに努めていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の全体会議や日々の業務の時に職員の声を聞く時間をもうけている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員が発言できる環境作りに努める。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況や要望に合わせ、臨機応変に勤務調整を行っており、職員の理解も得ている。</p>	<p>○</p> <p>状況の変化などに対応できるよう、今後も職員と事前にはっきり話しあい、臨機応変に勤務してもらおう。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者のダメージが予測される異動は避けている。</p> <p>同法人内の他2つのグループホームとも常日頃から利用者・職員との交流を深めており、顔なじみの環境を作っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も利用者の安心した生活を一番に考えた人員の配置を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時に研修プログラムが有り、段階に応じ、随時受けさせている。 職員が希望する研修は積極的に参加することが出来る。 教える側の職員の育成にも力を入れている。</p>	<p>○</p> <p>研修に参加したいという意欲の高い職員だけでなく、全職員に段階に応じた研修に参加してもらって、職員の向上心を高めていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設長が県のグループホーム連絡協議会副会長を務めていることから地区別の意見交換会に出席したり、事業者同士の会合にも積極的に参加して情報交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>法人外の研修や勉強会の後の懇談会や食事会に積極的に参加して、より良い人のつながりを作っていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の休憩中や、ストレスがたまりぎみの時に、外にお茶を飲みに行ったりできるような環境作りをしている。「親睦会」を設け、職員同士で交流を深め、ストレスを軽減できるような企画を立てて、旅行に出かけたりしている。</p>	<p>○</p> <p>職員としっかりコミュニケーションをとり、休暇の希望や体調の状態など話しやすい環境作りを続けていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が希望する研修は積極的に受講できる様に支援している。 また、責任を持って仕事に取り組んでもらえるように、やる気を引き出す対応に努めている。</p>	<p>○</p> <p>きちんとまじめに勤務している職員は賞与などに結果が表れるなどと、全体会議で運営者が発言している。行事の準備などをまかせて向上心を持たせるきっかけ作りを今後もしていく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者の人格を尊重して、利用者を傷つけない言葉かけで対応している。利用者が思っていることを聴き、受けとめる努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者からの訴えがあった場合、すぐに対応できる体制を日頃から心がける。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の立場に立って真剣に受け止め、相談にのり、信頼関係が築ける様に对应する。</p>	<p>○</p> <p>施設が家族の心の休息の場となるよう、これからも対応していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や入居申込の際に、本人や家族の要望を聞き出し、どのようなサービスを提供していくかを常に把握している。	○	本人と家族の希望が一致していない場合、どのように対応していくか、その時その時で柔軟な対応を行うことが今後一層必要となる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学や入居申込の際に、できるだけ施設の雰囲気や居住している利用者の様子を見て頂き、場の雰囲気に馴染んで頂けるよう配慮している。	○	それまで住んでいた場所と施設での生活にギャップを感じさせないためにも、利用者のペースで徐々に施設に慣れて頂けるような気配りを行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に自信を高めるような言葉かけや働きかけを心掛けている。 職員が助けられたり教えてもらったり一緒に喜びあい感謝したり支え合っている。	○	若い職員と利用者が関わることにより、お互い知らなかった世情や風潮を知ることがたくさんある。そういった世代の違いを超えた関わりをもっと増やして、刺激のある場所にしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力しあいながら、利用者が少しでも豊かな生活ができるように日々努力している。	○	施設を利用者が自分の家と考え、職員を第二の自分の家族と思ってもらえるような温もりのある雰囲気を作りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気がかりなことや、意見、希望を職員に伝えたり相談したり出来るよう面会時に声かけ常に連絡等が取れる様にしている。	○	今後も利用者と家族がよりよい関係を保てるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密にし、出来る限り協力し合い 家族が施設に会いに来たり、利用者や家族と一緒に掛ける等出来る様にしている。	○	今後もどなたでも訪問しやすい環境を作っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の状態を把握しながら気の合う利用者同士、外に出掛ける機会を設け、買い物、散歩と気分転換を図ったり工夫している。	○	利用者同士のコミュニケーションの手助けを必要に応じて行い、より良い生活をしてもらえるようなケアを今後もしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設の行事に誘ったりしている。 気軽に相談できる環境を作っている。	○	困った時にサポートハウスに相談してみようと思って連絡してもらえるよう今後も努力していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護に対する希望や意見を取り入れて出来る限り本人の意向に添うように努めている。	○	今後もまめに話をうかがったり、利用者の状況把握に努め、ニーズをくみとっていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	興味を引くような話題で昔のことや生活歴、ライフスタイルを聞き出しコミュニケーションを持つよう努めている。	○	今後も、家族や利用者とともに話しあい、利用者の把握に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人の1日の様子をこまかく記録し、見直しを行っている。それを基に介護計画を立てている。	○	今後も日報や介護計画を生かして、より良いケアを行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、利用者、家族の意向や職員の意見を取り入れて作成している。	○	日々変化していく利用者の状態やニーズに対応できるように、今後も利用者本位の介護計画に沿ったケアを行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に状態変化を日報や申し送りで確認している。定期的に、分科会でも見直ししている。	○	今後も随時、見直しを行い、サービスの質を高めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに毎日実施された介護の様子を時間ごとに日報に正しく記録を取っている。	○	今後も日報に、利用者のこまかい変化などを分かりやすく記載し、介護計画の見直し等に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や行事の内容に応じて、集まる人数や施設を考えている。	○	今後も、ホーム同士協力しあいながら、より良いケアを行っていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園からのボランティア(読み聞かせ、うた)を定期的にお願ひし、喜ばれている。	○	今後も気軽に民生委員や地域の方が施設に立ち寄って下さったり、ボランティアの方が来て下さったりしてもらえるような環境作りをしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いを行っている。任せきりにせず、ニーズの把握に努めている。	○	今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、連絡・相談を行っている。	○	今後も継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは医療機関と24時間連絡出来る体制を整えて安心出来る体制を取っている。	○	必要に応じて、かかりつけ医と相談できる機会を今後もっと増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後も先生に気軽に相談したり、指導が受けられるような環境を作っていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後も看護師に気軽に相談し利用者の健康管理をしっかり行っていく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後も、一日でも早く安心して病院からサポートハウスに戻ってきてもらえるよう支援していく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後も書面や話し合いで十分に家族や利用者説明し方針を共有していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後も皆で協力し合いながら、今後の利用者の変化に対応出来るよう、日々検討していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後も十分な話し合いや情報交換を行い、利用者へのダメージを防いでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	表現が十分出来なくなった方でも、自信を失わせないような言葉かけや配慮をしている。また、個人情報を外部に職員が持ち出さないように、きちんと教育している。	○ 今後も言葉づかいや利用者への接し方に気をつけていく。今まで以上に個人情報の取り扱いに注意を払っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人に合った分かりやすい説明を心掛け、何をすることも本人がどうしたいのかを尊重する。	○ 布巾や雑巾を縫う作業、食事の準備など、分かりやすく説明し、行ってもらっている。どのお菓子を食いたいかなど、自分で選んでもらう機会をこれからも作っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活してもらえるように、職員が支援している。	○ 今後も利用者の希望にそった支援を送っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容院の訪問があり、入居者は一人一人の希望にあわせて利用している。服装なども個人の意見を尊重し、個性を大切にしている。	○ 利用者の個性を大切に、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえる声かけを行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒に食事を頂いている。盛り付け、後片付けも利用者が主体となって行っている。楽しんで行っている方がたくさんいる。	○ 家庭的な食器を使用、茶碗、湯のみ、箸等使い慣れたものになっている。食材選び、調理、盛り付けなど、出来る事を一緒に行い、自信をつけてもらえるよう今後も援助していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	季節の食材で色や形を目で楽しんでいただけるように配慮している。家族と一緒に居室で好きな物を食べてもらったり、本人と一緒に買い物に行ったりしている。	○ 今後も嗜好の把握に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人差があるので入居者の排泄感覚をつかみ時間を見計らってトイレに誘導、「脱オムツ」を心掛けている。	○	今後もプライバシーを傷つけない様に一律な対応ではなく、個別対応に配慮していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数など個人の希望に合わせて、くつろいだ入浴が出来るように支援している。	○	今後も利用者の要望に合わせて支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のパターンを把握したり、家族から情報を得たりし、安心して眠れるよう支援している。	○	今後も利用者が安眠出来るように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当番表を作成し、掃除、洗濯物たたみ、食器拭き、モップ掛けなどを楽しく行ってもらい、役割を持ってもらっている。	○	今後も利用者の楽しみごとや役割を作り、仕事にメリハリをつけていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事での自由行動時、食材などの買い出し時など、出来る限り利用者に支払いをしてもらったりし、買い物をする喜びを感じてもらっている。	○	今後も一人ひとりの力に応じた支援を行っていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の喫茶店、買い物など、気軽に外出出来るよう支援を行っている。	○	今後も気軽に外出出来るように支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の遠足などで、様々な所へ行く機会を作っている。行事前にはご家族に参加を呼びかけている。	○	今後も利用者の楽しみ作りを行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応している。 手紙のやり取りや電話で、家族や知人の方との交流の支援をしている。	○	今後も本人や家族の希望に合わせて、支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも気軽に訪問が出来る環境を作っている。 24時間365日面会可能である。	○	訪問時は居心地良く過ごせるような雰囲気を作っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会で職員全体が知識を深めており、より良いケアを実践している。	○	今後も、より良いケアを行えるように勉強会などを行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	勉強会や会議で職員にきちんと理解してもらっている。 見守りをしている為、鍵をかける必要性はない。	○	今後も継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者を見守りやすい場所において、一人ひとりの位置と様子を目配り気配りし、安全確保に努めている。	○	今後も本人のプライバシーに配慮しながら、利用者の安全確認に努めていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所に入る扉があり夜間など人がいなくなる時は鍵がかけられる様になっているが実際にはかけたことはない。 薬剤、洗剤、刃物などは台所の目に付きにくい所定の場所に保管している。	○	今後も利用者の行動把握に努めていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルや連絡網が有り、職員は常時見ることが出来る体制で事故防止を防いでいる。	○	今後も様々な機会でも知識を深め、事故防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や緊急事態の対応策のマニュアル連絡網があり職員は内容を熟知している。	○	今後も消防訓練や勉強会を行い、利用者の急変時や事故発生時にきちんと対応出来るように職員指導を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域での行事に出来るだけ参加し、地域の方との交流を深めながら、災害時に協力し合えるような環境作りをしている。	○	施設内、施設外の防災訓練に参加し、災害があった時に対応出来るように、より良い体制を確保していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の気になる状況、ささいな変化など、こまめに家族に報告し、リスクに備えている。	○	リスクに対応していく為に、家族と報告・連絡・相談を今後もまめに行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の介護を通して身体の状態変化や異常のサインを早期発見することで重度化や入院を防いでいる。	○	今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書類をスタッフルームに常に置き、職員はいつでも見る事が出来るようになっている。気になった事や利用者のささいな変化があれば、その都度かかりつけ医に相談している。	○	今後も服薬の支援に努めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者一人一人の排便管理を徹底している。便秘の原因を考え、飲食物を工夫したりしている。また、施設長の方針として薬に頼らないケアに取り組んでいる。	○	今後も運動や食事の工夫で便秘の予防を行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前に、手洗い・うがいを行い、毎食後、歯みがきを行っている。義歯の手入れ、うがいなど口腔の清潔を保つ様に支援している。	○	今後も利用者の健康を保つ為、口腔ケアをきちんと行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分量や食事量を日報に記入している。 また、一人ひとりの状況に合わせた食事を提供している。	○	利用者の食事を楽しんでもらえるように、今後も食事提供に工夫を加えていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての知識を深める為、スタッフルームに感染症マニュアルなどを置き、職員が自由に見れるようにしてある。	○	今後も、研修や勉強会で知識を深め、感染症を予防していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、付近、台所周りは定期的に漂白を行っている 台所に入る前には手荒い消毒専用のエプロンに付けかえ調理、冷蔵庫など食材、食品の保存場所として衛生管理に心掛けている	○	今後も、まめに手洗いなどを行い、台所の衛生管理を徹底していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の掃除や草取り、花の水やり、近所の方との挨拶をまめに行うことにより、近所の方が気軽に声をかけてくれるようになった。	○	今後も畑作りや花の水やりなどをまめに行い、来客に良い印象を持ってもらったり、地域の方が気軽に入ってこれる環境を作っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、職員が協力して作成した季節を感じられる壁面作りを数箇所に飾ったり、懐かしい曲を流したりしている。	○	今後も居心地のよい空間作りに努めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングで自由に過ごせる様な環境を作っている。 廊下にも長イスを設置し、談話出来る空間を作っている。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	備え付けのベッドや衣装ケースが有るが 使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、 家庭的で個性が出ている。	○	利用者が居室で安心して過ごせるような環境を これからも整えていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	居室の清掃時は窓を開け、気になる臭いや空気のだよみが ないように換気を適宜心掛けている。 温度調節も冷やし過ぎや暖め過ぎないように適切に 行っている。	○	季節の寒暖などに配慮し、利用者が 不快に感じないような適切な温度を心がけていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	居室、食堂、廊下共用部分には手すり設置はないが かえってこれが身体機能の低下防止に役立ち、 職員もできることを励まし、見守るケアを実践し、 自立した生活につなげている。	○	利用者の状態が悪化した時(認知症が進んだ時)も 職員が出来ない所は助ける等対応し、 ケアを行っていききたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレや風呂の目印は手作りで混乱を防ぐ工夫をしている。 居室の入り口に手作り表札があり、 一人一人の目印となり、場所の間違いを防いでいる。	○	利用者が楽しんで施設の目印となるものを 作っていく作業は、今後も継続して 行っていききたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関や裏庭には草花を植えたり、プランターで 季節の野菜作りを、利用者自身が楽しんで 作業をしている。	○	季節に応じた飾りつけ等も、 今後一層力を入れていききたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・玄関の前に立ったとき威圧感を感じさせないよう、利用者や訪れる人の視点で気楽に立ち寄っていただけるよう工夫しています。
- ・年老いても生きる喜びを日々感じ、昔ながらの畳のある生活環境の中で、無理せず、安心して暮らせるよう手助けしています。穏やかな笑顔で「今日も楽しかった」と言われるように、職員全員が努めています。